

## 1 研究資料

# 都道府県・政令市等実施の公立学校教員採用選考試験における 保健体育科教諭専門教養（第1次選考）の分析に関する考察

高野能弘<sup>1</sup> 荻原孝之<sup>1</sup>

## Consideration on the Analysis for the Selection of Public School Teachers (First Stage Examination) in Prefectures and Designated Cities, etc. for Health and Physical Education Specialist Teachers

TAKANO Yoshihiro<sup>1</sup> OGIWARA Takayuki<sup>1</sup>

### キーワード (Keywords)

中学校, 高等学校, 専門教養試験出題の分析

Junior high school, High school, Analysis of specialized knowledge test questions

### I. はじめに

我が国では、文部科学省が令和4年1月に発表した『「教師不足」に関する実態調査』で「教師不足」として、臨時的任用教員等の確保が出来ず、実際に学校に配置されている教師の数が、各都道府県・指定都市の教育委員会において学校に配置することとしている教師の数（配当数）を満たしておらず、欠員が生じていることがあらためて浮き彫りとなった。

また、中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」が取りまとめられ、優れた人材を確保できるような教員採用等の在り方の検討の方向性について盛り込まれたところである。

さらに、文部科学省は、令和5年5月31日「公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施等について 方向性の提示」を示し、教員採用選考試験を実施している自治体等に具体的な取り組みを示している。その中で、令和4年12月19日の中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～

「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成」では「現在の教員採用選考試験の実施時期は、4～5月に出席、7月に筆記試験を中心とした1次試験、8月に面接や模擬授業等の実技を中心とした2次試験を実施し、9～10月に合格発表を公表するのが一般的です。少なくとも20年以上このスケジュールに大きな変化は見られません」と指摘している。現在、我が国において公立学校教員採用選考試験は、68都道府県・政令市教育委員会及び大阪府豊能地区教職員人事協議会で毎年度実施されている。公立学校の教員の採用は、選考によりその任用を行う任命権者である教育委員会の教育長が行い（教育公務員特例法第11条）、教育委員会の所管に属する学校等の職員は、主に当該教育委員会が任命する（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第34条）。その受験資格は地方公務員法（地方公務員法第16条）及び学校教育法（学校教育法第9条）の欠格条項に該当しない者であることが定められている。さらに公立学校教員採用選考試験受験資格には、受験区分で求められる教育職員免許状取得者であり、公立学校教員採用選考試験実施年度末までに当該教育職員免許状取得者見込みの者が含まれる。

<sup>1</sup> 平成国際大学教職支援センター  
y-takano@hiu.ac.jp

選考に係る検査では、選考区分は一般選考および特別選考に区分され、一般選考においては、第1次検査と第2次検査、筆記試験（教職教養、一般教養、専門教養、論作文）、面接試験（集団面接、集団討論、個人面接、模擬授業、場面指導）、適性検査、実技指導などが行われている。また採用については、一般選考に加え、社会人特別選考等、複数の特別選考の方法が用いられ、実施されている。

本研究では、上記のような状況下において大きな変革を求められる中、引き続き実施されている都道府県・政令市等実施の公立学校教員採用選考試験における保健体育科教諭専門教養(第1次選考)についてあらためてその実態を把握し、今後の変化も注意深く分析することで、教師を目指す学生にとって教員となる支援をするための手が見出そうとするものである。

## Ⅱ. 方法

本学学生用サイト『講義ノート』内「教員採用試験全国実施問題」(時事通信出版局編)及び共同出版社発行の『全国都道府県・政令市の教員採用試験「過去問シリーズ」』から収録した中学校、高等学校、特別支援学校の第1次試験で出題された・教員採用試験・保健体育科問題を対象として分析し、学習指導要領解説に準拠する問題抽出項目・「表1 教員採用選考試験問題抽出項目(学習指導要領解説準拠)」をもとに分類した。

収録対象は、2022年4月から学習指導要領が高等学校において年次進行で導入される2021年に実施した2022年度教員採用選考試験問題を対象とした。

## Ⅲ. 結果と考察

各都道府県及び政令市の分析結果を「表2 2022年度教員採用選考試験実施状況(2021年実施)」に示す。表に示す「一次方式」では、マーク等(マークシート解答及びOCR解答)、記述、併用(マーク等・記述)の解答方式に分類した。出題された51件の試験問題では「マーク等」方式:15件・29.4%、「記述」方式:32件・62.7%、「併用」方式:4件・7.8%の割合となっている。(少数第2位を四捨五入、%は合計100%とならない場合がある。)

学校種別出題数は、「中学校」では、26件、「高等学校」24件、「中・高」(中学校・高等学校 両学校種出題)25件の出題があった。

「問題数」は、解答用紙の解答欄数とした。各学校種別出題数は、「中学校」54.3題(最多:96題:京都市 最少24題:北海道)、「高等学校」59.9題(最多:175題:岩手県 最少28題:宮崎県)、「中・高」54.4題(最多:100題:青森県 最少25題:東京都)である。なお、「中・高」において出題された問題は、中学校教員希望、高等学校教員希望で解答を指定される場合もあり、出題数すべてに解答することを求められないこともある。

試験時間は50分、60分、70分、80分、90分がみられる。また、専門教科と一般教養、教職教養の問題と併せて出題され、100分、120分の試験時間の出題も行われている。また、教員採用選考試験実施要項には、試験時間の掲載のない場合も見られる。一次試験の実施時期については6月から7月であるが、実施時期の早期化、大学3年生を対象とした試験も見られるなど、教員確保を目的とした実施も見られる。

また、2022年度教員採用選考試験出題傾向(2021年実施)を「表3 2022年度教員採用選考試験出題傾向(2021年実施)」に示す。

### 【中学校】

中学校では、「教科の目標」の出題が196.1%であり、出題1件について、約2問の出題があった。「第1章 総説」も63.2%の出題がある。

また、「体育分野」の「各学年の目標及び内容」では144.7%で出題あたり、約1.5問が出題されている。「領域及び領域の内容」では、「D 水泳」が143.4%、「A 体づくり運動」が102.6%で出題1件あたり1問以上が出題されている。

「領域及び領域の内容」において50%を超えているのが、「F 武道」の「A 柔道」82.9%、「イ 剣道」78.9%の出題がある。「第1章 総説」も63.2%と高率である。

続いて、「B 器械運動」60.3%、保健体育科の「1 目標」56.6%、「C 陸上競技」51.3%の出題が見られる。その他の出題は多岐に渡り、359.2%である。中学校の「保健分野」では「2 内容(3「内容の取扱いを含む」)」が76.3%、「(1)健康な生活と疾病の予防」の「(ウ)生活習慣病などの予防」が59.2%、同「(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」



表2 2022年度教員採用選考試験実施状況(2021年実施)

都道府県・	一次方式	中学校	問題数	高等学校	問題数	中・高	問題数	特別支援学校	都道府県・市	一次方式	中学校	問題数	高等学校	問題数	中・高	問題数	特別支援学校
1 北海道	マーク等	●	24	■	30			●	36 徳島県	記述	●	74	■	74			
2 青森県	記述					▲	100		37 香川県	記述					▲	50	
3 岩手県	記述	●	73	■	175				38 愛媛県	記述	●	35	■	54			●
4 宮城県	マーク等					▲	38		39 高知県	マーク等					▲	34	▲
5 秋田県	記述	●	79	■	72				40 福岡県	併用					▲	25	
6 山形県	記述	●	54	■	48			●	41 佐賀県	記述					▲	80	
7 福島県	記述	●	79	■	80			●	42 長崎県	記述	●	50	■	50			
8 茨城県	マーク等					▲	40		43 熊本県	併用	●	49	■	44			
9 栃木県	記述					▲	44		44 大分県	マーク等					▲	30	
10 群馬県	記述	●	38	■	53				45 宮崎県	記述	●	29	■	28			
11 埼玉県	マーク等	●	50	■	40				46 鹿児島県	記述					▲	94	▲
12 千葉県	マーク等					▲	50		47 沖縄県	マーク等					▲	50	▲
13 東京都	マーク等					▲	25	▲	48 札幌市		●						●
14 神奈川県	マーク等	●	49	■	40				49 仙台市						▲		
15 新潟県	記述					▲	33		50 さいたま市		●						
16 富山県	記述					▲	78	▲	51 千葉市						▲		
17 石川県	併用					▲	47		52 横浜市		●						
18 福井県	記述					▲	70		53 川崎市		●						
19 山梨県	記述	●	40	■	50				54 相模原市		●						
20 長野県	記述	●	58	■	50				55 新潟市						▲		
21 岐阜県	マーク等	●	30	■	30				56 静岡市		●						
22 静岡県	記述	●	47	■	98				57 浜松市		●						
23 愛知県	マーク等					▲	50		58 名古屋市(独自)	記述					▲	63	
24 三重県	マーク等					▲	70	▲	59 京都市(独自)	記述	●	96					
25 滋賀県	記述	●	69	■	71				60 大阪市		●						
26 京都府	記述	●	78	■	78				61 堺市		●						
27 大阪府	併用	●	55	■	55			●	62 神戸市(独自)	マーク等					▲	59	
28 兵庫県	記述					▲	82		63 岡山市(独自)	記述	●	50					
29 奈良県	マーク等	●	35	■	35				64 広島市		●						
30 和歌山県	記述					▲	31		65 北九州市		●						
31 鳥取県	記述	●	70	■	75				66 福岡市		●						●
32 島根県	記述					▲	69		67 熊本市		●						
33 岡山県	記述					▲	49		68 大分県(豊後地区)		●						
34 広島県	記述	●	47	■	51				学校種・問題数		中学校	1413	高等学校	1438	中・高	1361	
35 山口県	記述	●	55	■	57										合計	4212	問

56.6%と続いている。

【高等学校】

高等学校では、保健体育「第1款 目標」の出題が、255.3%で最も高率である。

科目「体育」では「2 内容(3「内容の取扱い」を含む)が97.4%である。

「領域及び領域の内容」では「D 水泳」73.7%、「F 武道」の「A 柔道」67.1%、「A 体づくり運動」56.6%、「E 球技」53.9%、「C 陸上競技」51.3%で5割を超える。

「H 体育理論」の出題も76.3%、「1 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展」の「(イ) 現代のスポーツの意義や価値」の出題率も52.6%である。

科目「保健」においては「(1) 現代社会と健康」の「(ウ) 生活習慣病などの予防と回復」が102.6%と最も高率である。同じく「(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」が61.8%、「(イ) 現代の感染症とその予防」51.3%と続いている。

また、専門学科「体育」においては、「第3 スポーツII(球技)」5.3%の出題が見られる。

以上の分析から、「学生がどのように試験対策を

すべきか」「学生を指導する教員がどのように試験対策の指導をすべきか」を考察すると、以下の点が浮き彫りとなってくる。

- 1 学習指導要領及び学習指導要領解説の内容を理解する。
- 2 保健体育科の教員として、中学校及び高等学校「保健体育」の教科書に示される中学校「保健分野」、高等学校科目「保健」の内容、中学校「体育分野」、高等学校科目「体育」の「H 体育理論」の内容を理解する。
- 3 学習指導要領に示される中学校体育分野、高等学校科目「体育」に示される各分野の内容に示される各領域の内容の理解と実際の知識及び技能を理解・習得する。
- 4 大学で履修・修得する体育・スポーツ、保健に関する専門分野の内容を理解・習得する。
- 5 体育、スポーツ、保健、実際の指導にかかる知識及び技能をはじめとする幅広い内容を理解・習得する。

表3 2022年度教員採用選考試験出題傾向(2021年実施)①

都道府県・政令市 試験(校種) 実施あり:●■▲ 実施なし:空欄	集計			合計 出題数 総数計	出題率 % (少数第1位)
	1 中学校	2 高校	3 中・高		
収録問題件数(合計)	26	24	25	4212	56.2
<b>【中学校】</b>					
基本法令等	11	0	3	14	18.4%
第1章 総説	13	0	35	48	63.2%
第2章 第7節 保健体育					
第1 目標	79	0	70	149	196.1%
第2 各学年の目標及び内容	80	0	30	110	144.7%
体育分野					
1 目標	30	0	13	43	56.6%
2 内容(「3内容の取扱い」を含む)	23	0	5	28	36.8%
A 体づくり(各学年7単位時間以上配当)	62	0	16	78	102.6%
ア 体ほぐしの運動	2	0	3	5	6.6%
イ 体の動きを高める運動 実生活に生かす運動の計画	6	0	6	12	15.8%
B 器械運動	35	0	11	46	60.5%
ア マット運動	7	0	17	24	31.6%
イ 鉄棒運動	9	0	1	10	13.2%
ウ 平均台運動	6	0	1	7	9.2%
エ 跳び箱運動	17	0	8	25	32.9%
C 陸上競技	20	0	19	39	51.3%
ア 短距離走・リレー	4	0	1	5	6.6%
イ 長距離走	2	0	0	2	2.6%
ウ ハードル走	20	0	6	26	34.2%
エ 走り幅跳び	9	0	5	14	18.4%
オ 走り高跳び	9	0	3	12	15.8%
D 水泳	71	0	38	109	143.4%
ア クロール	2	0	1	3	3.9%
イ 平泳ぎ	1	0	2	3	3.9%
ウ 背泳ぎ	0	0	1	1	1.3%
エ バタフライ	0	0	1	1	1.3%
オ 複数の泳法で長く泳ぐこと、又はリレーをすること	4	1	0	5	6.6%
ア スタート	0	0	0	0	0.0%
イ ターン	0	0	0	0	0.0%

表3 2022年度教員採用選考試験出題傾向(2021年実施)②

都道府県・政令市	集計			合計	出題率 % (少数第1位)
	1 中学校	2 高校	3 中・高		
試験(校種)	●	■	▲	出題数 総数計	
実施あり:●■▲ 実施なし:空欄					
E 球技	35	0	14	49	64.5%
ア ゴール型	3	0	4	7	9.2%
バスケットボール	16	0	12	28	36.8%
ハンドボール	9	0	5	14	18.4%
サッカー	3	0	4	7	9.2%
イ ネット型	5	0	2	7	9.2%
バレーボール	13	0	16	29	38.2%
卓球	10	0	11	21	27.6%
テニス	8	0	16	24	31.6%
サッカー	1	0	0	1	1.3%
バドミントン	10	0	11	21	27.6%
ウ ベースボール型	1	0	1	2	2.6%
ソフトボール	16	0	4	20	26.3%
F 武道	18	0	10	28	36.8%
ア 柔道	52	0	11	63	82.9%
イ 剣道	45	0	15	60	78.9%
ウ 相撲	2	0	2	4	5.3%
G ダンス	27	0	10	37	48.7%
ア 創作ダンス	6	0	4	10	13.2%
イ フォークダンス	12	0	15	27	35.5%
ウ 現代的なリズムのダンス	19	0	2	21	27.6%
H 体育理論(各学年3時間以上)	10	0	29	39	51.3%
(1) 運動やスポーツの多様性(1年)	1	0	1	2	2.6%
(ア) 運動やスポーツの必要性和楽しさ	0	0	0	0	0.0%
(イ) 運動やスポーツへの多様な関わり方	0	0	0	0	0.0%
(ウ) 運動やスポーツの多様な楽しみ方	5	0	1	6	7.9%
(2) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方(2年)	11	0	0	11	14.5%
(ア) 運動やスポーツが心身及び社会性に及ぼす効果	4	0	1	5	6.6%
(イ) 運動やスポーツの学び方	5	0	9	14	18.4%
(ウ) 安全な運動やスポーツの行い方	8	0	0	8	10.5%
(1) 文化としてのスポーツの意義(3年)	16	0	10	26	34.2%
(ア) 現代生活におけるスポーツの文化的意義	3	0	4	7	9.2%
(イ) 国際的なスポーツなどが果たす文化的な意義や役割	19	0	1	20	26.3%
(ウ) 人々を結びつけるスポーツの文化的働き	0	0	1	1	1.3%
3 内容の取扱い	8	0	0	8	10.5%
その他	87	0	186	273	359.2%

表3 2022年度教員採用選考試験出題傾向(2021年実施)③

都道府県・政令市 試験(校種) 実施あり:●■▲ 実施なし:空欄	集計			合計	出題率 % (少数第1位)
	1 中学校	2 高校	3 中・高	出題数 総数計	
保健分野					
1 目標	24	0	12	36	47.4%
2 内容(3「内容の取扱いを含む」)	19	0	10	58	76.3%
(1) 健康な生活と疾病の予防	16	0	1	17	22.4%
(ア) 健康の成り立ちと疾病の発生要因(1年)	8	0	2	10	13.2%
(イ) 生活習慣と健康(1年)	7	0	4	11	14.5%
(ウ) 生活習慣病などの予防(2年)	37	0	8	45	59.2%
(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康(2年)	24	0	19	43	56.6%
(オ) 感染症の予防(3年)	26	0	5	31	40.8%
(カ) 個人の健康を守る社会の取組(3年)	5	0	3	8	10.5%
(2) 心身の機能の発達と心の健康(1年)	13	0	1	14	18.4%
(ア) 身体機能の発達	4	0	0	4	5.3%
(イ) 生殖に関わる機能の成熟	3	0	9	12	15.8%
(ウ) 精神機能の発達と自己形成	1	0	0	1	1.3%
(エ) 欲求やストレスへの対処と心の健康	8	0	5	13	17.1%
(3) 傷害の防止(2年)	21	1	1	23	30.3%
(ア) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因	1	0	2	3	3.9%
(イ) 交通事故などによる傷害の防止	2	1	11	14	18.4%
(ウ) 自然災害による傷害の防止	7	1	1	9	11.8%
(エ) 応急手当	30	0	7	37	48.7%
(4) 健康と環境(3年)	8	0	4	12	15.8%
(ア) 身体对环境に対する適応能力・至適範囲	7	1	3	11	14.5%
(イ) 飲料水や空気の衛生的管理	10	1	4	15	19.7%
(ウ) 生活に伴う廃棄物の衛生的管理	3	0	1	4	5.3%
3 内容の取扱い	0	0	0	0	0.0%
その他	105	0	143	248	326.3%

表3 2022年度教員採用選考試験出題傾向(2021年実施)④

都道府県・政令市 試験(校種) 実施あり:●■▲ 実施なし:空欄	集計			合計 出題数 総数計	出題率 % (少数第1位)
	1 中学校 ●	2 高校 ■	3 中・高 ▲		
【高等学校】					
基本法令	0	3	0	3	3.9%
第1章 総説	0	26	13	39	51.3%
第2章 第6節 保健体育					
第1款 目標 (含 内容の取扱い)	0	163	31	194	255.3%
含・内容の取扱い	0	48	25	73	96.1%
第2款 各科目					
第1 体育	0	9	0	9	11.8%
1 目標	0	31	10	41	53.9%
2 内容(3「内容の取扱い」を含む)	0	32	5	74	97.4%
A 体づくり(各学年で7~10時間)	0	21	22	43	56.6%
ア 体ほぐしの運動	0	10	0	10	13.2%
イ 実生活に生かす運動の計画	0	19	2	21	27.6%
B 器械運動	0	13	4	17	22.4%
ア マット運動	0	21	2	23	30.3%
イ 鉄棒運動	0	5	3	8	10.5%
ウ 平均台運動	0	0	0	0	0.0%
エ 跳び箱運動	0	7	5	12	15.8%
C 陸上競技	0	35	4	39	51.3%
ア 短距離走・リレー	0	2	2	4	5.3%
イ 長距離走	0	4	0	4	5.3%
ウ ハードル走	0	5	6	11	14.5%
エ 走り幅跳び	0	8	0	8	10.5%
カ 三段跳び	0	0	0	0	0.0%
キ 砲丸投げ	0	1	2	3	3.9%
ク やり投げ	0	2	0	2	2.6%
D 水泳	0	52	4	56	73.7%
ア クロール	0	2	2	4	5.3%
イ 平泳ぎ	0	1	0	1	1.3%
ウ 背泳ぎ	0	0	0	0	0.0%
エ バタフライ	0	0	0	0	0.0%
オ 複数の泳法で長く泳ぐこと、又はリレーをすること	0	0	1	1	1.3%
ア スタート	0	4	0	4	5.3%
イ ターン	2	0	0	4	5.3%



表3 2022年度教員採用選考試験出題傾向(2021年実施)⑤

都道府県・政令市	集計			合計	出題率 % (少数第1位)
	1 中学校	2 高校	3 中・高		
試験(校種) 実施あり:●■▲ 実施なし:空欄	●	■	▲	出題数 総数計	
E 球技	0	41	0	41	53.9%
ア ゴール型	0	3	3	6	7.9%
バスケットボール	0	14	3	17	22.4%
ハンドボール	0	6	5	11	14.5%
サッカー	0	6	12	18	23.7%
ラグビー	0	7	8	15	19.7%
イ ネット型	0	0	0	0	0.0%
バレーボール	0	7	2	9	11.8%
卓球	0	12	2	14	18.4%
テニス	0	10	2	12	15.8%
バドミントン	0	13	10	23	30.3%
ウ ペースボール型(ソフトボール)	0	1	0	1	1.3%
ソフトボール	0	9	4	13	17.1%
F 武道	0	21	1	22	28.9%
ア 柔道	0	26	25	51	67.1%
イ 剣道	0	29	3	32	42.1%
G ダンス	0	16	4	20	26.3%
ア 創作ダンス	0	6	3	9	11.8%
イ フォークダンス	0	11	0	11	14.5%
ウ 現代的なリズムのダンス	0	10	0	10	13.2%
H 体育理論(各年次6時間以上)	0	58	0	58	76.3%
1 スポーツの文化的特性や現代のスポーツ発展(入学の年次)	0	1	1	2	2.6%
(ア) スポーツの歴史的発展と多様な変化	0	0	0	0	0.0%
(イ) 現代のスポーツの意義や価値	0	32	8	40	52.6%
(ウ) スポーツの経済的効果と高潔さ	0	0	0	0	0.0%
(エ) スポーツが環境や社会にもたらす影響	0	3	1	4	5.3%
2 運動やスポーツの効果的な学習の仕方(その次の年次)	0	4	0	4	5.3%
(ア) 運動やスポーツの技術と技能及びその変化	0	3	3	6	7.9%
(イ) スポーツの技術と技能及びその変化	0	9	1	10	13.2%
(エ) 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方	0	13	1	14	18.4%
3 豊かなスポーツライフの設計の仕方(それ以降の年次)	0	2	1	3	3.9%
(ア) ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方	0	0	0	0	0.0%
(イ) ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方	0	0	0	0	0.0%
(ウ) スポーツ推進のための施策と諸条件	0	0	0	0	0.0%
(エ) 豊かなスポーツライフが広がる未来の社会	0	0	2	2	2.6%
3 内容の取扱い	0	0	0	0	0.0%
その他	5	134	20	159	209.2%

表3 2022年度教員採用選考試験出題傾向(2021年実施)⑥

都道府県・政令市	集計			合計 出題数 総数計	出題率 % (少数第1位)
	1 中学校 ●	2 高校 ■	3 中・高 ▲		
試験(校種) 実施あり:●■▲ 実施なし:空欄					
第2 保健	0	3	0	3	3.9%
1 目標	0	16	11	27	35.5%
2 内容 (「3内容の取扱い」を含む)	0	7	3	10	13.2%
(1) 現代社会と健康	0	16	0	16	21.1%
(ア) 健康の考え方	0	7	6	13	17.1%
(イ) 現代の感染症とその予防	0	32	7	39	51.3%
(ウ) 生活習慣病などの予防と回復	0	61	17	78	102.6%
(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	0	34	13	47	61.8%
(オ) 精神疾患の予防と回復	0	9	13	22	28.9%
(2) 安全な社会生活	0	6	0	6	7.9%
(ア) 安全な社会づくり	0	11	6	17	22.4%
(イ) 応急手当	0	23	9	32	42.1%
(3) 生涯を通じる健康	0	3	0	3	3.9%
(ア) 生涯の各段階における健康	0	14	7	21	27.6%
(イ) 労働と健康	0	6	1	7	9.2%
(4) 健康を支える健康づくり	0	9	4	13	17.1%
(ア) 環境と健康	0	11	6	17	22.4%
(イ) 食品と健康	0	10	3	13	17.1%
(ウ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	0	10	5	15	19.7%
(エ) 様々な保健活動や社会的対策	0	5	0	5	6.6%
(オ) 健康に関する環境づくりと社会参加	0	6	1	7	9.2%
3 内容の取扱い	0	0	0	0	0.0%
その他	0	126	31	157	206.6%
専門学科「体育」					
1 目標	0	0	0	0	0.0%
第1 スポーツ概論	0	0	0	0	0.0%
第2 スポーツⅠ(採点競技及び測定競技)	0	0	0	0	0.0%
第3 スポーツⅡ(球技)	0	4	0	4	5.3%
第4 スポーツⅢ(武道及び諸外国の対人的競技等)	0	0	0	0	0.0%
第5 スポーツⅣ(ダンス)	0	0	0	0	0.0%
第6 スポーツⅤ(野外の運動)	0	0	0	0	0.0%
第7 スポーツⅥ(体づくり運動)	0	0	0	0	0.0%
第8 スポーツ総合演習	0	0	0	0	0.0%
その他	0	0	0	0	0.0%
問題数(解答欄・合計)	1413	1438	1361	4212	

## Ⅳ. まとめ

本研究では、本学学生が目指す保健体育科教員採用選考試験（一次試験）において受験する専門教養についてその出題傾向を明らかにし、教職関連の授業において学生の知識・技能をはじめとする資質・能力の向上を目指すことをねらいとした。教職関連の授業の質の向上を図り、学生に教員採用選考試験を通過するための実践的な力量形成を実現していくための指導を行なっていくことが重要であると捉えた。

現在、教員採用選考試験は実施方法が多様化し、さまざまな指導が学生に必要となる。その支援を行うのが、本学においては教職支援センターの役割であり、今後もさまざまな教員採用選考試験の動向を着実に捉え、学生の支援を行うことを目指していきたい。

今後の継続的な研究の方向性としては、引き続き毎年度実施される全国の教員採用選考試験問題の分析と考察を行い、単年度のみならず経年推移を捉え、その傾向をより正確に把握していきたい。

## 文献

文部科学省中学校学習指導要領（平成29年告示）。  
文部科学省高等学校学習指導要領（平成30年告示）。  
文部科学省中学校学習指導要領（平成29年告示）  
解説保健体育編。  
文部科学省高等学校学習指導要領（平成30年告示）  
解説保健体育編 体育編。  
文部科学省令和3年度（令和2年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況について。  
文部科学省令和4年度（令和3年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況について。  
文部科学省（2022）「教師不足」に関する実態調査。  
中央教育審議会（2022）『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）。  
文部科学省（2023）公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施等について 方向性の提示。  
戸田芳雄他（2022）新しい保健体育。東京書籍。  
森昭三他（2022）中学保健体育。学研図書。  
友添秀則・衛藤隆他（2022）現代高等保健体育。大修館書店。  
渡邊正樹・友添秀則他（2022）新高等保健体育。

大修館書店。  
共同教育研究会編（2023）教員採用試験「過去問」シリーズ埼玉県・さいたま市の保健体育科。共同出版。  
時事通信出版局編（2022）教員採用試験全国実施問題。時事通信出版局。  
松本敬子（1998）教員採用試験問題の分析と活用－学生の自主学習への試み－。熊本大学教育実践研究第15号。  
荻野清（2008）教員採用試験に関する研究－復元状況、指導要領、指導法問題について－。鎌倉女子大学紀要第15号。  
斉藤ふくみ（2013）教員採用試験における養護教諭専門教養の出題傾向の分析－全国都道府県教育委員会が求める資質・能力－。茨城大学教育学部紀要 62号。  
三田部勇（2015）保健体育科教師として教員採用選考試験で問われる専門教養の現状。筑波大学体育系紀要。